

令和6年度第3回京都市市民参加推進フォーラム会議 摘録

【開催日時】

令和7年1月28日（火）午前10時～正午

【開催場所】

京都市役所本庁舎4階 正庁の間

【議 題】

- (1) 第3期京都市市民参加推進計画に対する評価について
- (2) 次期京都市市民参加推進計画の方向性について
- (3) 市民参加の裾野拡大の取組について

【報告事項】

- (1) 市民参加に関する主な新しい事業について
- (2) 新たに設置された附属機関等について

【出席者】

14名

（乾座長、白水副座長、村田副座長、荒木委員、岡田委員、竹田委員、千葉委員、並木委員、西澤委員、平田委員、平野委員、松井委員、三宅委員、森田委員）

【特記事項】

公開で開催（傍聴者1名）

【議事内容】

1 開 会

（SDGs・市民協働推進部長あいさつ）

2 議 題

(1) 第3期京都市市民参加推進計画に対する評価について

<事務局>

（資料2に基づき説明）

<並木委員>

委員自身が計画の評価を行い、貴重な意見が集まった。これを受けて、現行の計画でどこまで市民参加が進んでいるのかが一目で把握できる、バロメーターのようなものを設定してはどうか。

<事務局>

第3期市民参加推進計画において、「重視する視点と指標」の項目で設定しており、毎年進捗を確認している。

<乾座長>

計画策定段階のバロメーターだけでなく、計画の評価を実施した上でのバロメーターを設定し、現行計画がどうだったのか、発信しないのか。

<事務局>

次期市民参加推進計画を公表していく際には、現行計画の評価があり、それを踏まえて次期計画を策定したといった形で発表することを想定している。

<並木委員>

現行計画の進み具合を発信できると良い。市民参加のステップとして、まずは、行政の取組を知り、次に、自身が市民参加の取組に関わるといった段階がある。市民自身が、京都市の市民参加がどの程度進んでいて、次期計画ではこのステージにチャレンジするといったことが認識できるようにしてはどうか。議論していきたい。

<乾座長>

市民参加のはしごという考え方があるが、計画の評価やアンケートを実施して、できている、できていないというだけではなく、どの段階できているのかを把握する。それにより、次にやるべきことも見えてくる。引き続き、検討していければ。

<西澤委員>

評価を実施してみて、難しかった。次期計画でバロメーターが設定できると、評価の実施や評価結果の発信という点において有効ではないか。

評価を実施して、情報発信や対話の取組の手段は豊富になってきているが、一方で、情報が適切な対象者に届いているのか、対話後、参加者がどう変わったのかを把握できていないという課題がある。次期計画に向けては、課題を踏まえた検討が必要である。

<事務局>

ご指摘のとおり、対話を行った結果、参加者がどう変わったのかは把握できていない。例えば、京都市で過去に実施していた100人委員会の委員の方が、区の対話の取組に参加されているといった、ある程度範囲を限定しての追跡はできるが、京都市全体でとなると難しい。次期計画に向けた議論として、どういった指標があれば市民の行動変容が把握できるのか、委員の皆さまにお知恵をいただきたい。

<事務局>

(資料3に基づき説明)

<荒木委員>

SDGsに関して、京都市は先進的であるという評価を受けている一方、市民がそのことを認識していない。また、京都市はまちづくり活動に参加している市民が多く、活動の中でSDGsが実現されていると解釈し、アンケートでも関連性を確認してはどうかと提案した。しかし、設問数が増えてしまうため、委員の皆さんの意見も聞きたい。

また、アンケートの間17と18にある「市政への参加」と「まちづくり活動への参加」という言葉を聞いてすぐに理解できる市民は少ない。わかりやすく補足をしていただきたい。また、同設問の新型コロナ流行前と現在の比較に関して、「現在」を何年何月時点と指定した方がよい。

<乾座長>

新型コロナ関連の設問で2問もとるのは多いと感じている。

<並木委員>

設問を見て、意識のある方、真面目な方しか市政への参加やまちづくり活動はしていないというメッセージを感じた。新規で作られた設問の選択肢を見ても、まちづくりに関心があ

るとか、たまたま機会があったという市民しか「参加したことがある」という選択肢は選ばない。

次のステップとして、まちづくり活動を意識していなくても、いつの間にか参加しているといった仕組みを考えられたら。

例えば、携帯ゲームのP o k e m o n G Oというポケモンを捕まえるゲームがあり、不審者が出るような地域にポケストップができたことにより、ゲームをする人が集まり、結果として不審者が出なくなるということが起きたとする。このように、まちづくり活動へ参加している意識はないけれど、結果としてまちの課題が解決されているといったことが考えられないか。

まちづくりの意識が低い層に向けて、ゲームを活用した市民参加の可能性を聞けないか。ゲームデザインの専門家である荒木委員の御意見をお聴きしたい。

<荒木委員>

P o k e m o n G Oは、グーグルマップの情報を読み込んで、その情報を基にポケストップが作られ、ゲームユーザーが集まるといった仕組みなので、プラットフォームを作っている企業が自治体と協力して実施している事例をリサーチしてみるのもよい。しかし、通常は、影響力のあるコンピュータゲームのプラットフォーマーと連携した取り組みで成果を挙げるにはそれなりのマンパワーがかかると思われる。

参加の意識が低い層に向け、まちづくりへの関心を高めるような設問を検討していただきたい。

<乾座長>

回答者の大半が関心の低い層という状況で、どういった仮説を立てて、どういった設問を用意するのがいいか。参加されない方にも段階があって、もう少し細かく聞くという方法もある。

ただ、アンケートを続けても変化が少ないということは、まちづくりがどれだけ浸透したのか、統計上、優位な差が出にくくなってしまっている。

<千葉委員>

京都市に引っ越してきたときに、地蔵盆がしっかり機能している、区民運動会が行われていることに驚いた。暮らしの中でされている活動について、市民は、それが市政参加やまちづくり活動であると意識できていない。

例えば、問16の選択肢に、「京都市のヒアリングに協力する」という選択肢をいれることにより、市民に、まずはそこからでもいいと思ってもらおうと同時に、ヒアリングに協力することが市民参加であるという情報発信にもなり、裾野拡大につながる。

<乾座長>

前回のアンケートでは、地域の清掃活動や自治会活動は、参加されている方が比較的多い結果が出ている。ここに、先ほどの京都市のヒアリングに協力、市政広報版を見ているといった選択肢を入れるのもいいかもしれない。

<三宅委員>

京都市の制度を利用した活動もあると考えている。私が所属している団体では、昨年度、市長選挙に関する情報発信を行った。そういった市政への参加の形があることを伝えられると、より多くの参加している人から回答が得られる。

<竹田委員>

先ほど説明のあった、参加のリポート率を聞く設問をアンケートに追加するかどうかについて、前回アンケートの結果ではそもそもの参加割合が低いため、リポート率はこのアンケートでは聞かなくてもよい。

また、参加しての手ごたえ感について、現状、評価する指標がないため、今回の計画では難しくても、次期計画では評価指標をどう設定できるか、継続課題にしていきたい。

次に、問3、問14について、「参加の機会・時間があつた場合」と、「時間」を加えている。前回のアンケートでは時間がないから参加しないという回答が多い中、「時間」があつたならば、という聞き方はよい。一方で、「どのような方法であれば参加いただけますか」という表現は後退しており、主体はあくまでも市民なので「参加したいと思いませんか」という表現にしたほうがよい。全体的に、既に参加している市民も含めて、どうやって参加する機運を醸成していくのか、アンケートを通じて表現できればよい。

<乾座長>

アンケートを行政から個人に対して実施しているが、その間に自治会、NPO等のより行政に近いところで活動している団体がある。団体の活動が充実することが個人の活動の充実にもつながるので、個人だけでなく、団体にもアンケートが実施できればと思う。

<事務局>

SDGsを現行市民参加推進計画に掲げていたのは、SDGsの意識が十分に高まっている中、市民だけでなく企業、大学などの様々な主体の市民参加を促進するという趣旨である。

計画におけるSDGsは、企業等の社会貢献活動が中心となっている。また、SDGsパートナー制度として、企業にこういうことをしますと宣言してもらっており、その数は4,000を超え、この数字も参考となる。以上のことから、個人に対して、SDGsについてのアンケートは不要ではないかと考えている。

<乾座長>

SDGsでは、企業の社会的責任として、まちづくりや社会問題の解決に向けた活動してもらおう。市民参加推進計画のアンケートにSDGsを含めると、非常に多様な形になることから、アンケートでは聞かないこととして、この委員会は進めていっていいのでは。

(2) 次期京都市市民参加推進計画の方向性について

<事務局>

(資料4に基づき説明)

<森田委員>

市民参加推進計画の策定や提言をするにあたって、新京都戦略と整合性をとる必要がある。新京都戦略の策定過程で様々な調査等をしているのであれば、そういった情報も随時共有して欲しい。

また、新京都戦略には、戦略で重視する3つの視点のページ「ひらく、きわめる、つなぐ」のほか、市民参加につながる内容がいくつもある。市民参加推進計画を策定するうえで、委員自身も新京都戦略をしっかりと読み込み、内容を理解しておくべき。

<乾座長>

大切な視点である。新京都戦略の3つのキーワード「ひらく、きわめる、つなぐ」と、先ほ

ど事務局から示された行動段階を組み合わせるというのもひとつの考え方。

また、新京都戦略と市民参加推進計画の整合性が取れるよう、情報共有しながら策定を進めていきたい。

<平田委員>

市政参加とまちづくり活動として、自然と参加できる仕組みがあればよいので、アンケートで、ハードルが高くない活動であれば参加したいかを聞いてはどうか。その結果を踏まえて、市民がより参加しやすくなる施策を検討すればよい。

また、先ほど話題になったゲームを使った参加に関して、ごみ拾いをしながらポイントがたまっていくアプリがある。これは、ゲームに参加することによりまちを綺麗にしつつ、まちが汚れていたことに気づくというものであり、このような市民参加のハードルを下げる取組ができるとよい。

<並木委員>

重視する視点のキーワードをたくさん出していただいたが、次期市民参加推進計画は、何を大事にして、何をを目指すのかについて、フォーラムでも議論できればよい。

また、市民参加推進計画の施策を行動段階で整理するというのはすごくわかりやすい。

ただ、全体を見たときに、簡単な方から難しい方の順で整理されているが、それだと、一番ありたい姿になかなかとり着かない。順番を、ありたい姿を前にして、それに近づくために必要な取組の順で整理するとわかりやすくなるのでは。

<乾座長>

バックキャスト的に見せていくということであるが、市民参加が本当に目指すところは何かということも考えていきたい。

<平田委員>

新京都戦略のパブリックテラスプロジェクトについて、図書館は、これまでから市民参加の活性化のための施設として挙げられることがあるが、具体的にどのような取組を予定されているのか。

また、フォーラムで図書館の活用の議論を行うのであれば、京都市図書館協議会などと連携できればよいと思ったが、審議会同士で連携している事例はあるのか。

<事務局>

図書館の活用については、これから議論を始めるところであり、現時点で、戦略に記載されている以上のことは決まっていない。また、審議会同士の連携については、把握していないため、事例があれば共有させていただく。

<西澤委員>

市民アンケートについて、参加したかどうかだけではなく、参加した結果よかったのかどうかという設問を加えてもいいのでは。

(3) 市民参加の裾野拡大の取組について

<事務局>

(資料5・6に基づき説明)

<白水委員>

色々と濃密な話をされていたので、学生の話をもっと聞きたかったし、もっと時間が欲しい。

かった。二部の交流会のほうも、学生、公募委員、フォーラム委員など様々な層の人が交流できていた。こういう場が複数回あれば、もっと交流できるのでは。場所もよかった。

<平野委員>

時間が短かった印象。学生から色んな活動が共有され、そういった活動をもっと広げていきたい、知ってもらいたいという思い。QUESTION という場を使って、そうした活動を知ってもらう機会や交流の機会をもっと作っていきたい。

<三宅委員>

学生の立場で参加。フォーラム会議のような審議会の中では喋れないような、フランクな話のできたのでよかった。みんなの活動を知るきっかけになったのと、他の参加者とつながって仲良くなったので、そういう機会としても定期的で開催されるとすごく良い。

<平田委員>

途中から参加だったが、会場に到着した時からざっくばらんな雰囲気を感じていたので、入りやすかったし楽しかった。

<村田副座長>

学生に来てもらうのが大変だった印象。他のイベントに重なるなど、学生が参加しやすい仕掛けが必要。乾座長のスピーチが分かりやすかったのと、配布した市民公募委員が在籍する附属機関のリストもよかったので、上手く情報提供できれば学生の参加者が増えるのでは。

<竹田委員>

皆さんの感想に同感。当日、色んな活動を紹介してもらったが、地域や社会課題に目を向けた活動は他にも沢山あるので、1回だけで終わるのはもったいない。

<乾座長>

色々のご意見をいただいたが、来年度に向けて何をするか考えていく必要がある。事務局から説明をお願いしたい。

<事務局>

(資料6に基づき説明)

今日の会議で結論を出すものではないため、次回会議に向けて、今日の議論を踏まえて皆さんそれぞれどんなことがしたいかを考えてきてもらいたい。

<乾座長>

市民参加の推進に向け市民公募委員を増やす、という意味では目的を達成できたのではないか。市民公募委員制度が一定定着した中で、どういうあり方がいいかを、これまでは新年度が始まってから計画していたので実施時期が遅くなった部分がある。その反省を踏まえ、フォーラムの独自事業でもあるため、来年度の方向性や何を目的として何をするのかを、次回しっかり議論していきたい。

3 報告事項

(1) 市民参加に関する主な新しい事業について

<事務局>

(資料7に基づき説明)

<松井委員>

北鍵屋公園の Park-UP 施設は隣の学区なので一度行ってみたいと思う。話は戻るが、アン

ケートについて、自分なら、自分と一緒に活動している人ならどう答えるかな、という観点で見ている。まちづくり活動をしている人のほうが少ない点が気になった。また、自分としては知る→深める→…という順のほうが分かりやすかった印象。並木委員が仰っていたような理想から入るのもありだが、人によっては出だしで自分には関係ない、となることもあるので、最初が分かりやすい方が個人的にはありがたい。

<乾座長>

そこは好みもあるので、どちらの視点からでも見れるように工夫するのも一つ。

(2) 新たに設置された附属機関等について

<事務局>

(資料8に基づき説明)

<乾座長>

本日予定していた議題・報告事項は全て終了した。次回会議までに、本日議題にあった計画やアンケート、評価などについて、ご提案があれば事務局まで連絡いただくか、より具体的にこうしたほうがいいのでは、ということがあれば、オンラインも活用して委員の皆さんや私にご相談いただきたい。

<事務局>

以上で本日の第3回会議を終了する。